

外来小手術シリーズ「歯・歯槽部の小手術」

第1回

下顎埋伏智歯抜歯

大分大学医学部歯科口腔外科学講座
講師 診療准教授 高橋喜浩



はじめに

下顎埋伏智歯抜歯は、歯科臨床の中で外科小手術として最も一般的に行われて頻度の高い小手術の一つです。しかし、思わず手間取り時間がかかったり、抜歯を中断せざるをえなかったり、術後の出血やオトガイ神経鈍麻など合併症もあり、一筋縄ではいかないも事実だと思います。そこで今回は、抜歯の際に私が行っている工夫などを抜歯の手順に沿って紹介して、少しでも先生方の臨床のお役に立てればと思っています。

埋伏智歯抜歯の実際

術前の評価

抜歯を含む外科手術を行う時にいつも心がけていることは、どのように抜歯（外科手術）を行うかではなく、どのように安全に抜歯を行うかを考えるようにしています。術前に埋伏歯の位置、深さ、下顎管との位置関係などをX線パントモ撮影所見などで良く観察し、評価しておくことが大切と考えます（写真1, 2）。

麻酔

抜歯時の麻酔では、私は浸潤麻酔のみで抜歯を行います。伝達麻酔をしなければならないことはほとんどないと思っています。もし、浸潤麻酔で十分な麻酔効果が見られないときは、抜歯を中断することを考えます。浸潤麻酔は、数回に分けて色々な場所へ注射するように心がけています。また、歯根膜腔に麻酔するようにしています。

切開

切開線は、下顎骨外斜線に沿って第2大臼歯遠

心に切開を行い、そこから弧状に歯肉頬移行部へ向かって切開を行うようにしています（写真3）。第2大臼歯中央部や近心部から縦切開を入れた場合、付着歯肉部分の縫合が難しくなるのと術後の歯肉退縮を予防する意味でこのような切開を行っています。また、術後出血などでどうしても緊密に縫縮しないといけない場合でも自由度が高いことからこの方法を用いています。実際に切開する場合は、粘膜を引っ張り進展させ粘膜と骨膜を一気に切開することを心がけています（写真4）。

剥離

弧状切開部分より骨膜を傷つけないように剥離を進めます（写真5）。埋伏智歯周囲で癒着が見られる場合ははさみを用いてきれいに剥離するようにしています。

骨の削除

埋伏歯の歯冠周囲の骨を歯冠が全て見えるようにしっかりと削除します（写真6）。削除には、5倍速エンジンとゼクレアバーを用いたり、ストレートハンドピースとラウンドバーを用いたりその時に応じて使用しています。

歯冠歯根の分割

分割の前に一度抜歯挺子を入れ脱臼を試みます。歯冠がしっかりしているときほど抜歯挺子がかかりやすく力が加わりやすいのでこの段階でできるだけ脱臼させます。それから歯冠と歯根の分割を行います。分割用のバーで舌側皮質骨を破り、舌神経を損傷しないように最も注意します。できるだけバーで分割してしまうようにし、歯冠と歯根

を無理にノミなどで割るように分割しないようにしています。うまく割れず深部や舌側に歯質が残るとそれを除去するのが難しくなってしまうのでできるだけバーで分割してしまいます。

抜歯

分割前に脱臼させておくと分割後の抜歯は非常に楽になります(写真8)。多根歯であっても根の更なる分割はほとんどの場合しなくて済むと思っています。

不良肉芽組織除去・洗浄(写真9)

根尖部は下顎管に近接していることが多く根尖部に感染巣があることがほとんどないことから第2大臼歯遠心部のみを鋭匙で不良肉芽組織の除去を行っています。その後、生理食塩水で洗浄します。抜歯窩内を洗浄するのはもちろんですが、粘

膜弁の骨膜側も洗浄します。洗浄後、抜歯窩深部より出血がないか確認します。

縫合(写真10)

縫合は、3か所を基本としています。1本目第2大臼歯遠心部。ここは軽く粘膜が寄る程度の縫合としています。2本目切開遠心部。ここは、粘膜からの術後出血の原因となる部分になるため骨膜まで針を通してしっかりと縫合します。3本目近心の弧状切開部。歯肉頬移行部の可動粘膜部分で縫合します。

以上が私が行っている埋伏智歯抜歯の概略です。教科書とは異なる点もあると思います。また、もっと色々な工夫をされている先生方もたくさんおられると思います。より安全に早く抜歯を行う一つの工夫として参考にいただければ幸いです。



21歳 女性



38歳 女性



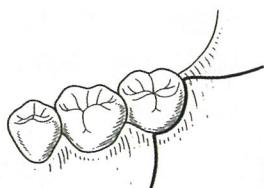
32歳 男性



51歳 女性

写真1 術前のレントゲンによる評価
一般的な埋伏智歯症例

写真2 術前のレントゲンによる評価
難しいと思う症例



図説口腔外科手術学より

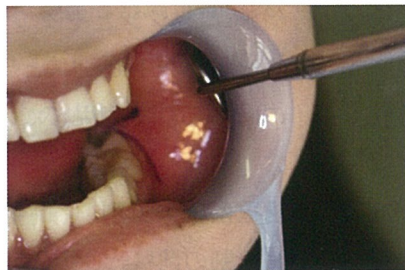


写真3 切開線のデザイン

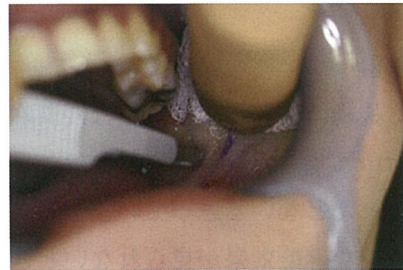
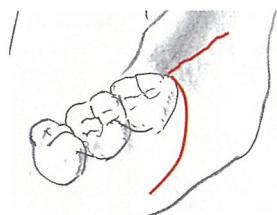


写真4 切開

粘膜を引っ張り進展させ
粘膜と骨膜を一気に切開している



私がよく用いている切開線



写真5 剥離
弧状切開部分より
骨膜の剥離を行っている

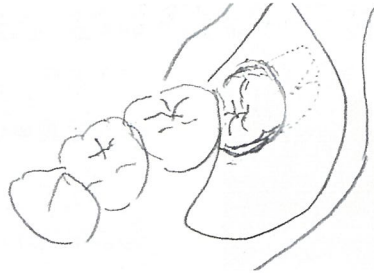


写真6 骨の削除
歯冠周囲の骨を歯冠が全て見えるようにしっかりと削除します

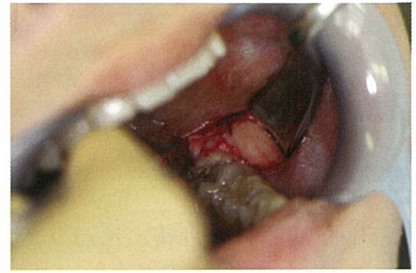


写真7 歯の分割と歯冠部の抜歯
歯冠を分割したところ(左)と歯冠を抜歯したところ(右)

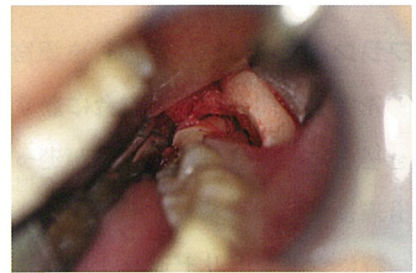


写真8 歯根部の抜歯
歯根を歯冠部分のスペースに
脱臼させたところ



写真9 不良肉芽組織除去・洗浄
左下第2大臼歯遠心部の不良肉芽組織を鋭匙で除去している(左)。
生理食塩水にて抜歯窩を洗浄している(右)

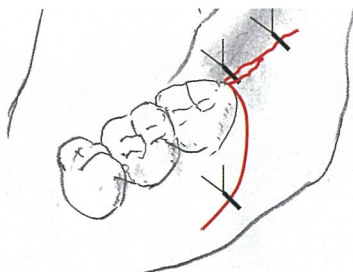


写真10 縫合
縫合は、3か所、第2大臼歯遠心部、切開遠心部、弧状切開部。